

とんだばやし



# かかし

1月号(No. 151)

発行

富田林市農業委員会

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号

電話 0721-25-1000(代表)

[季刊1.5.9月]

新年、あけましておめでとうございます。



## 卯の花絵

サバーファームでは、お正月を楽しんでもらおうと2004年から毎年、葉牡丹で干支を描いています。今年は、斜面一面の葉牡丹で描かれた卯が新年を祝っています。

農業委員会事務局 職員一同	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	農地利用最適化推進 委員	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	委員	副会長 府農業会議会長 東	会長 中谷清	富田林市農業委員会 (議席順)
	南	山本	池田	寺内	東	福田	仲谷		林	林	古川	岡田	杉本	森井	野浦	山際				
	義信	留似	辰弘	孝雄	敏夫	義弘	政一		林	成和	伸隆	奈未子	良民	義弘	正之	保則	忠弘	光夫		

## もくじ

- 中谷会長挨拶 ..... 2
- 吉村市長挨拶 ..... 2
- 大阪府農業委員会大会 ..... 3
- なにわ農業賞 ..... 3
- 農事功績表彰 ..... 3
- 農業祭 ..... 4
- 農業者年金 ..... 4



## 新年を迎えて

市長 吉村 善美

新年あけましておめでとうございます。

農業委員、農地利用最適化推進委員並びに農業者の皆様には、日頃より市政全般、とりわけ農業振興分野におきまして、多大なご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、昨年3年ぶりとなる農業祭の開催にあたり、ご尽力賜りました関係者の皆様から感謝申し上げます。

皆様ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響は長期化しており、今冬は季節性インフルエンザとの同時流行も心配されております。皆様には引き続き、基本的な感染防止対策の徹底にご協力をお願い申し上げます。

さて、本市では農業従事者の高齢化や後継者不足による生産人口の減少、耕作放棄地の増大など、農業を取り巻くさまざまな課題解決を図るとともに、さらなる発展を目指し、昨年3月に「農業振興ビジョン」を策定いたしました。

特に、喫緊の課題であります農業従事者の担い手・後継者不足に対しては、昨年府内で初めて誕生した民間による運営事業「富田林市きらめき農業塾」を農業委員会やJA大阪南、大阪府等と連携して支援し、次代の強い担い手を育成してまいります。

私は「農のこころ」は郷土・富田林の「こころ」とともに、持続可能な未来の富田林づくりに不可欠の「こころ」と信じております。

今後とも、市民の皆さまとともに力を合わせて、「人とまちがにぎわい、市民の笑顔があふれる、麗しの富田林」の実現に向け全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

結びに、本年が皆さまにとりまして、希望に満ちた良い年となりますことを、心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭にあたって

会長 中谷 清

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日ごろは、本市農業委員会の活動に格別のご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年も新型コロナウイルス感染症の流行が収まらず、次々と変異株が発生しました。感染症の流行により長きにわたって様々な制約を受け、皆さまお疲れのことと存じます。しかしながら、冬の到来を迎え、感染が拡大しやすい状況になっております。皆さまにはコロナ禍を乗り越えていくために、今一度感染防止対策を徹底していただけますようよろしくお願い申し上げます。

また、農業分野につきましては、エネルギー価格の上昇やロシアによるウクライナ侵略に加え、大幅な円安等の影響により、肥料価格が大幅に上昇しました。しかし、農業生産資材の価格高騰が農産物の価格に反映されにくいことから、私たち農業者にとっては非常に大きな問題となっております。さらに、農業は常に自然災害のリスクと隣り合わせでありますので、本当に厳しい状況にあるわけですが、皆さまには今後ともより一層のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今後も農業委員会は、各種農業課題の解決に向け、富田林市を含む関係機関と連携を図りながら、皆さまとともに取り組んでまいり所存でございますので、なお一層のご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、希望に満ちた良い年となりますことを心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 令和4年度 大阪府農業委員会大会

10月18日(火)、大阪国際交流センター大ホールにおいて、府内の農業委員等が参集する農業委員会大会が開催されました。本市からは、農業委員及び農地利用最適化推進委員16名が出席しました。

なにわ農業賞の表彰式では、本市から西板持地区の中筋秀樹さんが受賞されました。なにわ農業賞は、都市地域において効率的で安定的な農業経営を営み、都市環境の維持改善への貢献を通して、大阪農業の存在価値の向上に寄与する農業経営体を顕彰するために創設されたものです。これまでに151名の方々が受賞され、いずれも先進的な農業経営を営み、優れた農業経営者として地域農業を牽引されています。



また、今年度は外部講師として、横浜国立大学名誉教授の田代洋一さんから「大阪農業の課題と農業委員会の役割」をテーマとして講演が行われました。

### なにわ農業賞



西板持地区の中筋秀樹さんが、なにわ農業賞を受賞されました。中筋さんは、大阪なすやきゅうり、海老芋等を中心とした経営を平成22年に受け継がれました。生産・販売・労務管理データの活用による経営の最適化や、JGAPの取得を通じた生産工程管理の適正化に取り組んでいる点が高く評価されました。

### 農事功績表彰 (緑白綬有功章 野菜部門)



西板持地区で施設野菜作(なす、きゅうり)経営を行われている中筋博行さんが、農事功績表彰(緑白綬有功章・野菜部門)を受賞されました。この表彰事業は、農業における新しい技術や経営の改善に挑戦され、立派な経営を築かれるとともに、地域のリーダーとして技術の導入・普及、産地の形成、青年農業者の育成等に

大きな貢献をされてきた農業者の方々、並びに農業技術の普及、研究開発等に寄与された方々を対象に、歴代総裁宮殿下(現在は、第7代秋篠宮皇嗣殿下)の御名により表彰するものです。緑白綬有功章は、農事改良等への功績が顕著な方が表彰されます。

### 全国農業新聞

見やすく！分かりやすく！充実した農業・農村の情報を届けます

- ◆発行日/毎週金曜日
- ◆購読料/月額700円(税・送料込)
- ◆申込先/農業委員会事務局

## 富田林市農業祭



11月23日(水)に、石川河川敷川西グラウンドにおいて富田林市農業祭が開催されました。

当日はあいにくの天気でしたが、ハクサイ、キャベツ、ダイコン、キュウリなど富田林市産の新鮮な野菜を買い求める人でぎわいました。

また、大道芸、お菓子つかみどり、風船配布、スパーボールすくいなどの他に、岩手県大槌町の復興支援コーナー(パネル展示・特産物販売)など多くの催しがあり、子どもから大人まで多くの人が楽しみました。

農業委員会では、市民の方々に農業委員会活動(農

地利用最適化推進活動等)

についてご理解いただくための啓発とともに、兵庫県洲本市農業委員会と富田林市農業委員会の姉妹農業委員会交流事業として、淡路島産のたまねぎを使ったドレッシングなどを販売しました。また、農業相談のコーナーを設置し、農地の貸借や農作物の育て方などについての相談を受けました。

農業祭は、毎年勤労感謝の日に開催され、今年は雨が降る中、約3,000人の入場者があり、富田林市の秋の風物詩となっております。



## 農業者年金

【農業に従事する方なら広く加入いただけます】

・年間60日以上農業に従事する

・国民年金の第1号被保険者(保険料納付免除者を除く)で、

・20歳以上60歳未満の方。

※年間60日以上農業に従事する60歳以上65歳未満の国民年金の任意加入者も加入できます。

【少子高齢時代に強い年金です】

加入者の積み立てた保険料とその運用益を合わせた額により将来受け取る年金額が事後的に決まる「積立方式・確定拠出型」の年金です。

個人ごとの毎年度の年金資金の積立・運用状況は、毎年6月までに農業者年金基金よりお知らせしています。

【保険料の額は自由に決められます】

自分が必要とする年金額の目標に向けて、保険料は月2万円(35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円)から6万7千円の範囲内で、千円単位で自由に選ぶことができます。

また、農業経営の状況等に合わせて、いつでも見直しが可能です。

【終身年金で80歳までの保証つき】

年金は生涯支給されます。仮に加入者・受給者が80歳前に亡くなられた場合でも、死亡した翌月から80歳までに受け取れるはずであった農業者老齢年金の現在価値に相当する額が死亡一時金として遺族に支給されます。

【税制上の優遇措置】

支払った保険料は全額が社会保険控除の対象。所得税や住民税等の節税につながります。支払った保険料の15〜30%程度が節税になります。

【保険料の国庫補助があります】

認定農業者など一定の要件を備えた「意欲ある担い手」には、保険料(月額2万円固定)の2割、3割、5割の国庫補助があります(最大で20年)。

●お問い合わせ先

農業者年金基金専門相談員  
(03-3502-3199)

または

農業者年金基金企画調整室  
(03-3502-3942)

## 日本農業新聞

儲かる、役立つ、面白い！  
実利実益につながる情報を届けます

◆発行日/毎日発行(新聞休刊日を除く)

◆購読料/月額2,623円(税込)

◆申込先/日本農業新聞(0120-101630)